平成２９年度刈谷市学校給食アレルギー対応給食事業実施委員会議事録

開催日時　平成３０年１月１８日（木）午後１時３０分

開催場所　刈谷市第一学校給食センター会議室

出席者　日高小学校校長、東刈谷小学校校長、富士松南幼稚園園長

　　　　　刈谷医師会代表、刈谷アレルギー児の会代表

　　　　　かりがね小学校養護教諭

　　　　　教育部長、学校教育課長

　　　　　教育総務課長、学校給食センター所長、副主幹、主任主査

　　　　　栄養教諭

課長

議題（１）「（１）平成２９年度学校給食アレルギー対応状況について」と議題（２）「平成３０年度学校給食アレルギー対応給食事業計画について」を、学校給食センター所長より説明させていただきます。

所長

議題（１）平成２９年度学校給食アレルギー対応状況について

今年度も昨年同様、小中学校に対し、鶏卵の代替・除去によるアレルギー対応、小中学校・幼稚園に対し、牛乳の無配膳対応を行いました。

今日現在、鶏卵アレルギー対応者は中学生で１５人、小学生で５４人の計６９人です。牛乳の無配膳は中学生１１人、小学生３６人、幼稚園児１６人の計６３人です。このうち鶏卵と牛乳の双方対応しているのは中学生４人、小学生１５人で、食物アレルギー対応食対象者は１１３人になります。

　これら以外の本市の学校における食物アレルギーの状況について、資料１をご覧ください。

アレルギー児童生徒の在籍人数は５月１日現在で、小学校８，４１１人中７２０人（８．６％）、中学校４，１７５人中３２６人（７．８％）で、昨年より７１人増えています。このうちアナフィラキシー症状がある児童生徒は４７人で昨年比１５人増、エピペンを携帯している児童生徒は４２人で昨年比３人増です。

　２７品目以外でのアレルギーは昨年同様メロン、スイカといったウリ科の果物が多いですが、魚介類・野菜をアレルゲンとする児童生徒が増えてきたのが今年の特徴です。

議題（２）平成３０年度学校給食アレルギー対応給食事業計画について

①のとおり、今年度に引き続いて鶏卵の代替・除去対応と飲用牛乳の無配膳を継続していきます。

また平成３０年度４月に開校する特別支援学校では、普通の学校で提供する普通食と、嚥下機能が低下している児童生徒用に形態食も提供します。特別支援学校では、普通食について飲用牛乳も無配膳と鶏卵の除去食を行い、鶏卵の代替は当初は行いません。形態食のアレルギー対応はその特性から鶏卵に限らず、個別に実施可能な範囲において除去食を提供していく予定です。

②平成３０年度食物アレルギー講演会ですが、今年に引き続き、日常生活の中で気をつけたいこと、例えば食品を買うときの注意ポイント、アレルギー向きの食材紹介や調理の方法、調理上の注意点などについて講演をしていただくように計画しています。

以上で説明を終わります。

課長

　この議題（１）（２）について、ご質問はありませんか。

教育長

２７品目以外では魚介類が増えているという説明だが、どのように増えているのか

所長

「魚介類」、「魚卵」、「生がき」といったように、魚介類に関する項目が増加した

教育長

一つの品目で発症する子の数が増えているというのではなく、多彩な種類の食べ物で発症するようになったととらえてよいか

所長

　お見込みのとおり

医師会

刈谷はアレルギー率が高いが、検査する子・種類が増えたというのも要因だと思われる。十数項目を一度に検査できるような体勢が整っているなど、それだけ検査をしているということであろう。

教育長

少し前のことになるが、負荷検査を病院で指導医師のもとで受ける人が増えているというニュースに接したが、刈谷でも負荷受けるというのは増えているのか

学校

学校サイドでは実態を把握していない

医師会

診断書を書くにあたっては、食して反応が出るかどうかが目安になってくるので、負荷検査を受けることが望ましいと考える

教育長

エピペンを携帯している子は、昨年の３９人から今年は４２人になっているが、増えているとみてよいか

所長

昨年も増えているので、そうみるべきと考える

教育長

アレルギーの児童生徒は、小学校で８．６％、中学校で７．８％とあるが、全国平均と比べてどうか

所長

公表されている資料がなく、多いか少ないか解りかねる

文科省には数字を報告しているが、その結果をネット上で公表されているか確認できていない。

アレルギー児の会

あいち小児の先生が数字を持っていて、講演会に行くと数字を見る

課長

（３）質疑応答として、あいままでの説明以外で質問はありませんか

医師会

管理指導表について、案内に１月中に医師に予約して受診し提出するよう表記されているが、１月は繁忙である時期であることと、かかりつけ医であれば対応可能だが、初診だと血液検査や負荷検査をしてからでしか直ぐには書けないことが多いので、１月とはいわず、直近のというような案内にできないか

所長

以前に案内文を検討したときに、低学年では新たに発症したり治ったりする場合があるので直近のものである必要があるとして、このようになったと聞いている。

１月に予約が集中するとも聞いているし、１月に予約できないので１２月中か２月に入ってもいいかという相談を受けたこともある。

学校

　小学校に新１年生として就学する児童には、１０月下旬から１１月上旬の集団検診が保護者に話しをする最初の機会になる。２月上旬の１日入学で診断書を確認し、それから面談をしていくことになる。

幼稚園の新入園児は、１２月の就学園児の健康診断のときに調査をして、２月の１日入園で保護者を呼んで説明して、管理指導表の提出が必要な場合は、３月・４月で面談を行いつつ５月の給食開始に備えるという流れである。

部長

２月から学校でアレルギーの面談が先生と保護者の間ではじまり、医師の診断はその上での判断材料とさせてもらっていることも踏まえながら、案内文を検討したいと思う。

医師会

医師としても、学校の事情を理解していきたいと思う。

アレルギー児の会

保育園では乳製品を出さない献立を工夫しているというが、学校でも同じようにはできないか

栄養士

アレルギーのない児童にとって、牛乳を除くと必要なカルシウム量の摂取が難しくなること、牛乳が摂取してもらいたい食品であるという観点から、考えていない。

コロッケなど加工食品に乳卵を使わないなどの配慮はしているが、シチューについては乳製品を提供することが食育上の考え方でもあるため、豆乳シチューに代替するなどの対応は考えていない。

ほぼ毎月出ているカレーについては乳を使っていないが、学期に１度あるかどうかの食まるカレーについては乳も含めた栄養素を提供することを目的としている。

アレルギー児の会

　特別支援学校の給食が軌道に乗ると、アレルギー対応もすすむと聞いているが、どのような状況か。

所長

　特別支援学校の稼働がこれからという段階なので、もう暫く待ってほしい。

アレルギー児の会

　アレルギー講演会も意義があると考えるが、学校給食センターを見学できる機会などがあれば、アレルギー児をもつ保護者への理解につながると思う。

所長

　衛生上の面から場内に入って見学してもらうことは難しい。

　2階の見学コースからはアレルギー対応食の調理現場を見ることはできないが、一般の調理現場を見ていただくことはできるようになっている。

課長

　これをもちまして、平成２９年度刈谷市学校給食アレルギー対応給食事業実施委員会を終了します。